

# 令和6年度全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 菊陵 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、3年生を対象として、令和6年4月18日（木）に、「教科（国語、数学）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月10日から4月30日の間）に「生徒質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

#### (1) 教科に関する調査（国語、数学）

教科に関する調査（国語、数学）
① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

#### (2) 生徒質問調査

生徒質問調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

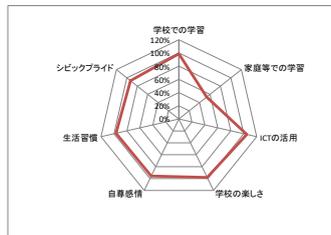
#### (1) 全国・本市の学力調査（国語、数学）の結果

本年度の結果	国語		数学	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.5	57	7.8	49
全国	8.7	58	8.4	53

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	思考力・判断力・表現力を問う問題の正答率が全国平均正答率より上回っている項目がある。しかし「読むこと」の領域において全国平均正答率が下回っており、課題がみられる。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	我が国の言語文化に関する事項。話者の話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめる問題。	
	努力が必要な問題	文章を速く読み付け、その関係を踏まえて内容を解釈する問題。目的に応じて必要な情報に着目して要約する問題。	
数学	全体的な傾向や特徴など	基本的な計算やデータを活用した問題の正答率が全国平均正答率を下回っている。また、短答式を不得意とする生徒が多い。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	問題場面における考察の対象を明確に捉え、正の数と負の数の加法の計算を求めた問題。	
	努力が必要な問題	筋道を立てて考え、証明する問題や、概念的・発展的に考え、成り立つ事柄を見いだし、数学的な表現を用いて証明する問題。	

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



「友達関係に満足しているか」「人の役に立つ人間になりたいとおもいますか」との問いに対して約90%の生徒が肯定的に回答している。

主体的・対話的で深い学びや個別最適な学びが、生徒の自己有用感等に与えている可能性があるため、今後も学校全体で授業改善を進めると同時に、家庭等での学習時間が少ないので、家庭学習習慣を定着させる取組を積極的に行う。

家庭学習等においてICTを活用していると回答した割合が低かった。今後は、個に応じた指導の場面や、各教科の学習（ドリルアプリ）等でも活用できるように啓発していく。

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組

- 各教科において、ICT機器を活用して、生徒たちが「わかった」「おもしろい」と思える授業づくりをする。
- 道徳や総合的な学習の時間の中で、「自己有用感」を高めることができる取組を実施する。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

- 家庭学習習慣の定着のために、週末課題の実施やドリルアプリの積極的活用を行う。
- 各学年の実態に合わせた「自学ノート」の取組や「いいねノート」コンクールを定期的の実施するとともに、教師が取組状況や学習効果等を検証して、実施方法などの改善を図っていく。